

# 瀬戸内海の景色に魅せられてー 島での地域コミュニティスペース立上げ支援



令和7年5月オープンに向け準備中

**支援機関** えひめ産業振興財団（ビジネスサポートオフィス）  
**支援内容** 移住者による起業

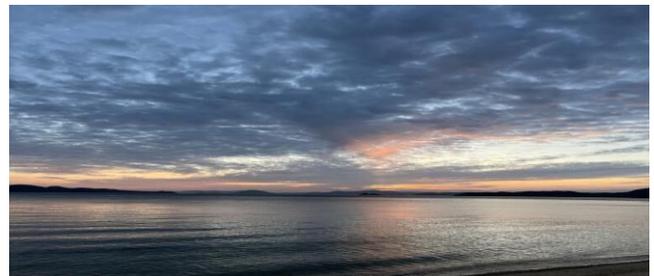
## 事業者 旅するキッチン

**代表者名** 齋藤 恵子  
**業種** 飲食及び食品加工業  
**所在地** 松山市神浦617-5  
**設立** 令和7年1月  
**資本金** なし

### 支援に至る経緯

齋藤さんとの出会いは、えひめ暮らしネットワークと連携して毎年開催される起業セミナーで、講師を務めたことがきっかけであった。

齋藤さんが起業を考えた動機は、北海道札幌市から休暇でふと訪れた瀬戸内の中島の海の水の美しさに魅了されたことが始まりであった。その後、松山市の地域おこし協力隊に応募し、島での生活がスタート。仕事を通じて島の人々に関わる中で、気軽に立ち寄ってお茶を飲んだり、集まれる場所、息抜きができる場がないことに気づいた。自分が島の暮らしに貢献できることは何かと考えたとき、これまで「衣・食・住」すべての仕事を経験してきたことを思い出す。その中でも「食」は老若男女を笑顔にできるツールであると実感し、自身の強みである調理師、フードコーディネーター、野菜ソムリエの資格を活かして、カフェという形でその空間を作り、提供していきたいと考えた。そうした思いを胸に、起業に向けた相談を開始した。



### 支援の内容

#### 1. 起業向けセミナー

起業にあたって、①起業における補助金活用、②特定創業支援事業のポイント、③起業及び小規模事業者について、④起業から事業立上げまでのパターン、⑤資金調達、⑥ビジネスプラン作成の整理ツールをレクチャー

#### 2. 特定創業支援の個別支援の対応

- (経営) ビジネスアイデアや収益モデルの整理等10項目
- (財務) 資金調達と運用における設備・運転資金と自己資金・借入金の把握と自己資金及び借入額とのバランスはとれているか等5項目
- (人材) 雇用契約に基づいた採用・賃金計算・支払方法、休日(有給休暇)等の雇用管理ができ、最低賃金の理解があるか等5項目
- (販路拡大) 外部・内部環境分析(SWOT)による市場・顧客・競合面からビジネスチャンスをつえ、自社の強みの把握をしているか等5項目の創業における知識習得をサポート

#### 3. 愛媛グローバルビジネス創出補助金の作成支援

解決する地域課題×活用する地域資源×活用するデジタル技術、事業内容、事業の独自性・セールスポイント、事業の課題・課題解決策、市場の規模、販売方法等、主要なスケジュール、補助内容と効果の見込、経費一覧表及び資金計画表の作成におけるブラッシュアップを支援

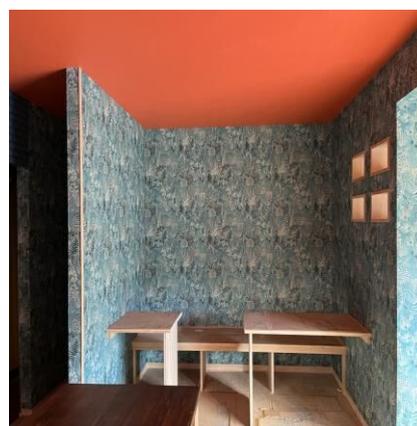
#### 4. 中島商工会の青色申告の紹介

税務署等への開業届の提出及び青色申告書作成における記帳指導が受けられるように中島町商工会の経営指導員を紹介

## 支援の効果

### 愛媛グローバルビジネス創出補助金に採択され、女性創業サロンや商工会にて開業の準備

令和6年度愛媛グローバルビジネス創出補助金に採択され、現在は令和7年5月オープンに向けて事業の立上げの準備をしながら、当財団ビジネスサポートオフィス女性創業サロンの勉強会に参加し、人脈作りに励んでいる。また、税務署等への開業届の提出及び確定申告書の作成ができるよう、中島商工会で記帳指導を受け始めている。



## 今後の展開

### 島の学生と一緒に中島ブランドの商品開発と移動式店舗を開発予定

中島本島には小・中・高校があることから、今後は学生の職業体験やお土産にできる加工品と一緒に開発し、柑橘の島ならではの「中島ブランド」を作っていく計画である。

更に、商圏を広げ柔軟に活動ができるビジネスとして、令和9年5月にはキッチンカーで島内外を回遊できる移動式店舗の開発を予定している。

## 活動を振り返って

## review

### 事業者の声

代表 齋藤 恵子



起業における補助金の活用やビジネスプランの作成からパワーポイントを使っただけのプレゼンなど今まで経験したことのない事ばかりで戸惑いもありましたが、玉井先生から丁寧に説明を受け、何度も質問を繰り返して補助金の採択を受けることができ開業も見えてきました。海外を含め色々な場所で生活した経験もふまえ、人と食とを繋ぐ「旅するキッチン」をこれからもよろしく願いいたします。

### 支援者の声

えひめ産業振興財団  
ジェネラルマネージャー  
玉井 裕司



松山市中島町は、夏になると海水浴客で賑わい、特に8月下旬に姫ヶ浜ビーチで開催される「中島トライアスロン」では、出場選手や関係者など多くの来島者が訪れます。一方で過疎化が進んでおり、かつて15,000人以上いた人口は、現在では約5分の1にまで減少。さらに、耕作放棄地も増え続けているのが現状です。こうした中で、中島の魅力に惹かれて移住し、地域のコミュニティスペースを立ち上げたり、加工品の開発に取り組まれる方が増えていることは、大変心強いことです。今後もその思いを持ち続け、島を盛り上げていくリーダーとしての活躍を期待しています。